

開催年月日 令和3年8月3日(火)
 質問者 日本共産党 真下 紀子委員
 答弁者 健康安全局長 古郡 修
 地域保健課医療参事 新里 勝宏

質問内容	答弁内容
<p>一 北海道歯・口腔の健康づくり(8020推進条例)に係る施策の推進状況について</p> <p>(一) 8020達成状況など現状把握と評価等について</p> <p>今ほど報告のありました8020推進条例に基づいて、2020年度北海道歯・口腔の健康づくりに係る施策の推進状況の報告に関して、私からも質疑をさせていただきます。</p> <p>8020について、国では2022年度の目標値としていた50%に対して、2016年度にはそれを上回る51.2%を達成しています。本道の達成状況についてはどうなっているのか伺います。また、それをどう評価しているのかも教えてください。</p> <p>さらに8020を実現するためには、より若い世代からの実態把握が重要と考えるところです。こうした世代の実態等について、道ではどのような指標に基づいて把握しているのか併せて伺います。</p> <p>(二) むし歯の予防について</p> <p>北海道では、まだ目標達成に至っていない部分が多くあるということなんですけど、先進的な8020の北海道の条例ができた時に私も関わっております。</p> <p>この道条例の重点施策がフッ化物洗口に特化している部分がありまして、当時から家庭でできるブラッシングやセルフケアによるプラークコントロールを位置付けるべきと申し上げてきたんですけど、残念ながら条例には歯磨き、ブラッシングの項目がありません。道は歯磨きやセルフケアの重要性をどう認識しておられるのか、むし歯予防にどう取り組んできたのか伺います。</p> <p>特に保育園、幼稚園、学校ではフッ化物洗口に偏重した取組になっていないか懸念されるところです。また、一律実施などになっていないのか伺いたいと思います。</p> <p>(三) 歯科健診を通じた健康保持の取組について</p> <p>それが実現できれば、実施できればですね、むし歯はできていかないということなんですけれども、実際には子どもの貧困などが社会問題化する中で口腔崩壊というような状況が生まれてきたこともあります。</p> <p>保育園、幼稚園、学校などでは定期的な歯科健診が実施されているんですけど、歯科健診は受診したら終わりではありません。その後のフォローなど継続した支援が重要と考えます。歯科健診を通じた健康保持の取組状況とその効果については、どのようにお考えか伺います。</p>	<p>【地域保健課医療参事】</p> <p>8020の達成状況等についてございますが、道では国と同様に、2022年度までに80歳で20本以上の歯を有する人の割合を50%以上とする目標を定め、歯科保健医療推進計画に基づく取組を実施してきておりまして、現計画策定時の基準値34.2%に対し、令和2年には41.7%と達成者は着実に増加しているものの、目標値には達していない状況でありまして、今後、自分の歯を保つための施策をさらに推進していく必要があると考えているところでございます。</p> <p>また、より若い世代の実態を把握するため、道では、毎年、60歳代における咀嚼良好者の割合や、60歳で24本以上の歯を有する人、いわゆる6024の達成状況を調査するなど、広く道民の口腔状況の把握に努めているところでございまして、昨年調査結果によりますと咀嚼良好者は目標値80%に対し69%、6024につきましては目標値60%に対し60.2%となっているところでございます。</p> <p>【地域保健課医療参事】</p> <p>むし歯の予防についてでございますが、むし歯は、特に歯が生えた直後から数年間のうちに発生しやすいため、乳幼児期からの継続した取組が重要と認識しております。</p> <p>このため、道といたしましては、歯科医師会等の関係団体と連携し、乳幼児及び児童・生徒が定期的な歯科健診や保健指導を利用できる機会を確保するとともに、保育所・小学校等におけるフッ化物洗口の推進を図るほか、適切なブラッシングの実践やフッ化物配合歯磨剤の使用など、歯科医師や歯科衛生士によるプロフェッショナルケアと家庭におけるセルフケアをむし歯予防のための主な施策として位置付けているところでございます。</p> <p>【地域保健課医療参事】</p> <p>保育園等における歯科健診についてでございますが、道内では全ての市町村において乳幼児歯科健診時に歯・口腔の健康に関する保健指導が行われておりまして、特にむし歯になるリスクの高い乳幼児に対するフォロー健診などの事後支援につきましては約9割の市町村で実施されるほか、必要に応じ道立保健所において、市町村に対し専門的助言などの支援を行っております。</p> <p>また、道ではこれまで、市町村や教育委員会と連携し、歯科保健指導等に関する研修を開催するなど母子歯科保健事業に従事する歯科衛生士や学校歯科健診後の事後措置を含めた保健管理を担う養護教諭</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>(四) 歯科保健医療推進計画の早期目標達成に向けた取組について</p> <p>健診することは非常に重要なことで、もちろん口腔ケアの意識付けにもなるんですけども、やはり定期的に健診ができるようにする環境を整えていくことが非常に重要だと考えております。</p> <p>口腔ケアというのは食べる、会話する、認知能力の向上、今ではスポーツの向上などにも注目されておりますけれども、生活する上で人生にとっても大変重要なものです。全ての世代を通じて関心を高めていき、気軽に口腔ケアに取り組んで、口の機能を残していくことが重要だと考えております。</p> <p>2022年度までの推進計画における目標の前倒し達成も視野にですね、どのように取り組むのか、お考えを伺います。</p> <p>今、コロナ禍でマスクをしていますよね。口元が見えません。口元を気にしなくなったり、唾液の分泌が、表情筋が動かないということで減るというような問題もあるんじゃないかと考えています。</p> <p>それで、働く世代の職場健診に歯科健診の法制化を道として求めていると伺いましたけれども、皆さんは定期的な歯科健診を受けてらっしゃるのでしょうか。是非ですね、皆さんも歯科健診を受けながら、その重要性を実感していただいて施策の推進に更に努めていただきたいと思いますと申し上げて質問を終わります。</p>	<p>等の資質向上に努めてきたところでございます。</p> <p>今後ともこれらの取組を通じ、市町村や教育委員会と密接に連携いたしまして、乳幼児期から学齢期にかけての継続した歯・口腔の健康づくりを推進していく考えでございます。</p> <p>【健康安全局長】</p> <p>今後の取組についてであります。道として歯・口腔の健康は、道民が生涯にわたり健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしていると認識しております。</p> <p>このため、道としましては、8020推進条例や歯科保健医療推進計画に基づき、乳幼児から成人・高齢期までの各ライフステージにおける歯科健診や保健指導の機会の確保を図るなどの取組を進めるとともに、毎年11月の8020推進週間において、民間企業との協働により、道民の皆さまへ歯科健診や家庭におけるセルフケアの重要性について周知に取り組んでおまして、今後とも着実かつスピード感を持って施策を推進し、全ての道民が生涯にわたって食べる楽しみを享受できる生活の実現を目指してまいります。</p>